

WIN CONCORD
ウィンコンコード

NEWSLETTER

2010
vol.20



20 年目の WIN コンコード

理事長 後藤 芳則

皆さん、こんにちは。WIN コンコード理事長の後藤です。WIN コンコードは、和歌山県内の大学で勉強している留学生に対し、生活上の支援することを目的に 1991 年設立されました。

昨年 8 月に特定非営利活動法人（NPO 法人）WIN コンコードになりました。これまで 19 年間は任意団体として活動してまいりましたが、法人格を取得してははっきりとした形をつくることが必要と思い、法人登録をしました。

縁あって和歌山へ来られた留学生の皆さんに、できるだけ地域と触れ合い、楽しく安心して勉強に励んでもらいたいという思いで活動しています。

設立当時は私たちスタッフも若く、対象の留学生も 25 名ぐらいでしたが、現在のような国際交流会館もなく、留学生の住むアパート探しと会員の皆さんから寄附していただいた生活用品を留学生の部屋へ運ぶことが仕事でした。あるとき、機関紙に「国際交流とは、引っ越しで腰を痛くすることだ」と書いたことがありました。平成 3 年度のニュースレターを見ると、1 年目の活動は、総会・交流会、サマーキャンプ、企業見学・スキー旅行、他は引っ越しばかりです。

その後、私たち会員や地域の方々と留学生との

交流を通して相互理解を深めるため、お花見、和歌祭、紀州ぶんだら踊りへの参加、また歌舞伎や文楽など日本文化の紹介、美術館・博物館訪問などいろいろなプログラムをつくってまいりました。

昨年度からは、新規の取り組みとして、留学生の就職活動を支援する「ビジネス日本語」という研修を実施しております。また、2 月に実施しました「トヨタ自動車見学とスキー旅行」の研修事業に和歌山県から初めて補助金をいただきました。

私たちの活動については、平成 13 年度に文部科学省の表彰を、平成 18 年度に和歌山県知事表彰を、平成 19 年度には駐大阪総領事からの感謝状や和歌山大学からの感謝状などたくさんの評価をいただきました。

これからは、できるだけ多くの人や企業に働きかけ、WIN コンコードの活動を支えていただき、国際的なネットワークをより一層強固なものにしていきたいと考えています。

会員の中には、海外旅行のときに、帰国した留学生と会って旧交を温めたり、卒業した留学生の結婚式に招待されたり、いろいろな形でおつき合いが続いています。

卒業した留学生がこれからも WIN コンコードとつながり、いつでも連絡ができるような体制をつくっていきたいと思っています。これからも皆様のご協力とご支援をお願いいたします。



文楽鑑賞

莫 丹丹（中国）

大阪国立文楽劇場文楽の初春公演を見た。

劇場に着いた途端に、銀色の「国立文楽劇場」という文字が太陽に照らされていて眩しかった。文楽劇場がこういうのだとは想像していなかった。また、劇場の前に、「文楽」の旗が掛けられ、紅白の提灯が飾られていた。中に入ったら、二匹の鯛が睨み合って、正月の雰囲気か漂っていた。

最初に入った「文楽入門」という展示室では、文楽の公演の写真や天皇陛下が劇場を訪れた場面の写真があるほか、人形の各部分を紹介するコーナーがあった。人形はかしら・かつら・手足・胴・衣裳・小道具などによって構成される。かしらの種類は、男は約三十種、女は約十種がある。したがって、かしらの見せる表情は実に変化に富んでいる。人形の衣裳は、操作するために背中に穴があり、豪華で華やかなものも多く、比較の実生活に即しているものもある。

また、実物展示のコーナーがあり、文楽の道具を触ることができる。舞台下駄、床本、見台、三味線などが陳列されていた。舞台下駄は底にワラジがついており、高さは20cmもある。「床本」は太夫が語るときに用いる台本であり、太夫にとっては最も大切なものである。独特の大きな淨瑠璃文字で1ページ五行で書かれている。床本を置く見台は太夫それぞれのこだわりがこめられていて、家紋などが書いてある。また、文楽で使われる三味線は絃の太い三味線である。よって、5ミリぐらいの厚みのある象牙製の撥で弾く。太い絃と重い撥を使うだけに、太棹三味線は音色が幅広く、表現力が豊かである。さらに、コーナーの両端には「文ちゃん」と「楽ちゃん」という二つの人形が立っていた。私たちは実際に操ってみて面白かった。

展示を見た後、いよいよ公演が始まった。初春を祝うため、劇場恒例の「にらみ鯛と凧」が舞台上部に掲げられていた。「にらみ鯛」は関西各地で新年の縁起物として親しまれてきた風習であり、凧の上に「寅」という干支の文字が揮毫されていた。開幕すると、舞台の右側に床が回って、太夫と三味線が現れる。向かって左側に太夫が、右側に三味線が座っている。ついで黒子が現れ、太夫と三味線を紹介する「口上」を述べる。それと同



時に、華やかな舞台が現れた。文楽の演目のせりふは古語なので、あまり意味が分からないけれど、やはり文楽の凄さに感心した。人形の表情と動き、太夫さんの素晴らしい語り、三味線のリズムと音色が深く印象に残っていた。文楽人形の最大の特徴は、一体の人形を三人で操るという様式にある。

「主遣い」「左遣い」と「足遣い」の三人は気持ちと呼吸がぴったりと合わねば、人形の動きはばらばらになって生きているようには見えない。また、「左遣い」と「足遣い」は、人形を舞台上で最大限に引き立てたいため、黒い頭巾と衣裳の黒衣姿であった。太夫さんは一つの演目の中の様々な登場人物を一人一人イメージして、人形に生命を吹き込むようであった。三味線は太夫さんのせりふや感情に合わせて力強い音色を響かせていた。太夫と三味線が助け合い、凌ぎあい、火花を散らすことにより、文楽の魅力を私たちに感じさせた。

演目の中に一番印象に残ったのは「日高川入相花王」の中で、清姫が大蛇になったシーンである。恋慕の恨みに燃える娘が大蛇に変化していく時に、紺と水色の太布を舞台いっぱいに使い、躍動的な動きで川の怒濤が表現され、4人遣いの太夫の人形の橋を渡る激しい光景がとても印象深かった。

公演の後、舞台の裏を見せてもらった。入り口では、人形たちは、それぞれの役に合わせた髪を結び、衣裳を着けて、人形遣いが動かしてくれるのをじっと待っていた。舞台は思ったより大きかったし、人形は重くて、自分の思う通りの表情を見せるにも苦労した。人形遣いは簡単そうに見えるけど、実際に操作するのは難しいということが分かった。

文楽を体験することで、昔教科書で勉強した日本の伝統芸能の中の一つの「文楽」という抽象的な言葉がふっとイメージ化され、生き生きしているようになった。日本で留学している間に文楽を見に行ってもよかったと思う。

日本への留学と私の国ラオス

ドゥアンピラー プッタワン (ラオス)

私が日本への留学を目指したのは、高校生の時に化学と環境分野に興味を持ったからです。ラオスでは、人口増加や工業化社会への変遷によって大量の生活排水と工業排水が排出され、河川や湖沼の水質汚染が深刻な社会的な問題となりました。私は、水質汚染を技術的に解決する勉強をしたいと考えて、高校卒業後にラオス国立大学の環境センターに入学しました。しかし、設立まもない専門学科であったために、実験設備や専門書などが不足していました。

そこで私は、日本の文部科学省奨学金を得る資格に挑戦しました。日本の環境汚染対策に関する技術レベルは最先端で、その国に留学できることは大きな希望を得ることになります。一方、私が獲得した工業高等専門学校への奨学金は編入先の高専を自由に選択できませんでした。最終的に、日本最北の高専である旭川高専（北海道）に編入することに決定しました。東京にある日本語学校で日本語を一年間学び、2006年3月末に期待と不安を胸に旭川に向かいました。

旭川高専で勉強できたことをとてもうれしく思っています。日本人学生を始め、すばらしい友人に恵まれました。中にはスリランカからの留学生も交流しました。そして、科学に関する専門知識の習得のみならず、日本と北海道の文化や歴史を学ぶこともできました。その中で、北海道の先住民でもあり少数民族でもあるアイヌ民族の歴史や文化をも教わりました。

旭川高専の最後の学年に、専門的な勉強の他に、卒業研を行いました。研究内容は、水中に含まれ

る無機および有機物質を捕集・吸着し、有用物質の回収や有害物質の除去を自由自在に行うことができる高分子材料の開発を目指し、毎日研究室で実験に励んでいました。

私が水中に存在する有用・有害物質の分離・除去の研究をする理由は、将来、環境保全の企業等で働きたいと考えているからであり、特に水質保全に関する新しい技術の開発や既存プロセスの改良に必要な知識を習得するとともに、水環境の測定分析に活用できる知識と技術を習得したいからでした。

しかし、そのような分野の知識を学ぶには、より高度な教育環境に身を置く必要があります。ラオスの大学では十分に学ぶことができません。また、留学した高専での勉強のみでも不十分だと考えるようになりました。そこで、高専を卒業した後、私は日本の大学である和歌山大学に進学することにしました。

そして、2009年4月、和歌山大学に編入することになりました。高専にいた時、いろいろな人々と出会い、様々な国際交流やボランティア活動にも参加しました。日本の文化、習慣や伝統を学び、そして母国ラオスの文化、習慣や伝統も日本人や他の留学生などに紹介してきましたが、大学でもそうした活動を続けていきたいと思っています。さらに、母国と日本との科学技術面での国際交流の推進に力を尽くすことで、両国の交流の掛け橋になりたいと強く願っています。その後ラオスに戻り、日本の大学や大学院で学んだ知識を生かして、母国の発展・繁栄や母国の人々の生活環境の向上に少しでも貢献したいと熱望しています。

私が日本で最も感動したのは、日本人の礼儀正しいところです。高専や大学の先生からボランティアの方々、また生活の中で会った人たちも皆優しく思いやりがあつてすばらしいと思います。

次に、「ラオスの国、仏教」について紹介したいと思います。

ラオスってどこにあるのか、どんな国なのかと問われても答えに困ってしまう日本人が多いでしょう。アンコールワットのように壮大な遺跡があるわけでもないし、タイのトムヤンクンのような名の知れた料理があるわけでもないです。かつてはインドシナの戦火に巻き込まれ、今もまたアジアの経済危機の影響をストレートに受けたラオスは、海外からの経済援助に頼っています。しかし、その中で暮らす人々の心は常に豊かでほほ笑みを絶やさないのです。





原生林の中を大きく蛇行しながらメコン川は森の国ラオスを1,900kmにわたって流れます。全長4,350km、チベット高原に源を発し、次第に水かさが増したメコン川は、タイ・ラオス南部では川幅が14kmにも達します。さらにカンボジアを抜けて、ベトナムから南シナ海に注ぎます。

インドシナ半島にひっそりと存在するラオスは、中国、ミャンマー、タイ、カンボジア、ベトナムの5カ国と国境を接し、日本の本州ほどの広さを持つ内陸国です。四季のある日本の季節と違って、熱帯性モンスーン気候に属し、雨季(5月～9月)、

乾季(10月～4月)の2つのシーズンに分かれます。国土は236,800平方キロメートルで、そのうちの約70%が高原や山岳地帯で、プーピア(ピア山)は国内最高峰(2,820m)です。

ラオスの人口は560万人で、(2005年現在)その内、約10%が首都ヴィエンチャンに集中しています。民族もモン族、ヤオ族、アカ族などその数68とも言われ、独自の文化を育んできました。

ラオスが歴史に登場するのは14世紀中頃、ランサン王国(ランサンとは百万頭の象という意味)がルアンパバンに王都を定めた頃からです。1893年にフランスの植民地となりましたが、1975年、ラオス人民革命党の勝利により王制を廃止し、現在のラオス人民共和国を無血で樹立しました。

首都ヴィエンチャンの街並はフランス植民地時代の古い建物と並木道、そして数多くの仏教寺院が混在し、アジアと西欧文化の融合が見られます。観光スポットである、タートルアン(That Luang)はラオス仏教の最高の寺院ですが、ラオスの象徴とも言えます。

最後にラオスの仏教について紹介します。ラオスは、スリランカ、ミャンマー、タイ、カンボジアなどと同じく、上座部仏教の国です。上座部仏教はテラワダ仏教とも呼ばれ、釈迦入滅後数百

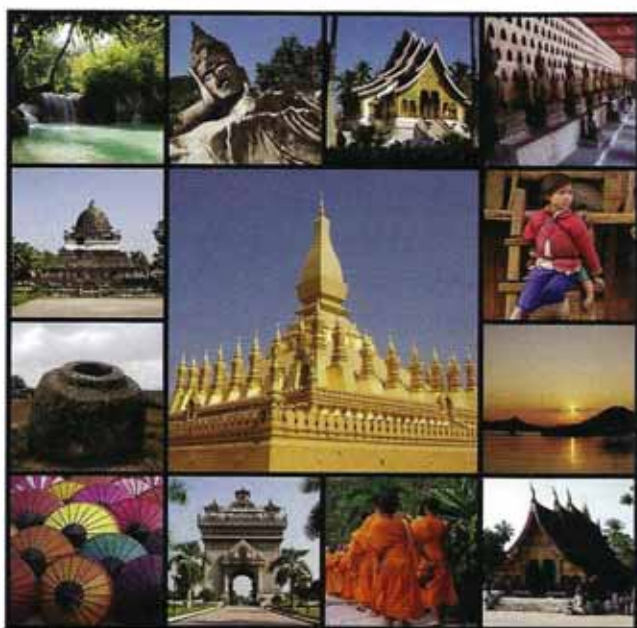
年経った頃に起こり、中国、チベット、朝鮮、日本などに伝わった大乘仏教とはかなり違った特徴を持っています。

上座部仏教の男達(少年から老人まで)にとって、剃髪(ていはつ)し、黄衣をまとって寺で暮らすという経験は、社会主義の国になった現在においても彼らの生涯において大きな節目になっています。僧侶たちは、生死を無限に繰り返してやまぬ「輪廻」(りんね)の世界から個人的に「解脱」(げだつ)して「涅槃」(ねはん)の境地に到達するため、戒律(かいりつ)を重視し、超世俗的に瞑想(めいそう)・修行に励んでいます。

托鉢もラオス人の生活に根付いています。托鉢とは、修行に専念するために食糧生産活動には従事しない出家者たちが、身体維持に必要な最低限の食料を信者からの施しとして受けることです。その托鉢の行為自体も一つの修行になっているとのことです。毎朝、道端でお坊さんが来るのを待ち、お坊さんが肩から掛けている入れ物にご飯や果物、お菓子などを入れます。

私の住んでいるあたりでは、お坊さんがお礼に読経をしてくれます。僧侶は寺に戻ってからそれらを分けて朝食をとります。

以上、今まで私が述べてきたラオスの紹介についてはまだまだあります。このニュースレターには全部書ききれないので、もっとラオスを知りたいと思ったら、ラオスを訪れ、ラオスに触れてください。私は「もち米に塩辛をつけて食べる人である」と言われているラオス人として生まれてきたことを誇りに、そして、独自の文化を持つこの国に生まれたことを幸せに思っています。



ナゾです

オエル (フランス)

フランスから来ました。オエルと申します。日本人に初めて会うときに、必ず「パリ?! ワーッ、素敵ー」と言われている。この表現は何回も聞いて、言外の意味は「フランスはとても素敵な国だから、なぜ日本が好き?」みたいです。今もう4回目に日本に来たので、みんなにはなんで日本が好きなの、と訊かれている。Good question. なんだろう? ナゾです。実は僕も本当に分からなくなった。半分日本人だから。100%フランス人なので、ハーフのことではないけど、僕の周りの人がそうと思っているらしい。生白子が好きだから? 和食と温泉に詳しいから? 日常の日本語が話せるから?

でも幸いまだびっくりすることがある。

★2月に食料経済の試験を受けて、こんな試験を受けるのは初めてでした! 3時間ではなくて、1時間でした。質問は知識より意見を訊かれた。それ以外、下書きの紙がなかった! どうやって質問を詳しく、分かりやすく答えるの? 隣の学生はちゃんと考えずにすぐ書き始めた。ショック!

★社会は「society」ですね。なんで子供と学生は社会の中にいるのに、社会人ではないの? 仕事してないから? じゃ、障害者や家庭の主婦や社会から除名されているということ? フランスの社会のコンセプトと全く違う。ショック!

★この間もびっくりした。でもこの話を聞いた友達も全員ショックでした。和歌山県の太地町で、クジラ肉を食べている。そこまで、no big deal。イルカ肉も。知ってた? 大丈夫、誰も知らない。まだ。「The Cove」という映画を見たら分かる。ところで、Word も知らない。「irukaniku」を書く。「居る果肉」がです。

日本人の多数はクジラとイルカが魚を沢山食べているので、魚が少なくていると考えている。だから、そのほ乳動物を殺していい。実はクジラはもう本当に少ないから、関係がありません。責任があるのは私たち! 人間。それで、人間はむごい捕食者なので、マグロも同じパターンでなくなっている。ときに日本人は世界のマグロの80%を食べている。今何もしないと、マグロがお寿司屋さんのメニューから消える。ショック!

★他の課題: 「蒸発した日本人」。借金を返すこと

が絶対にできない人とか、乱暴な夫から逃げたい女の人とか。自分の意思で、急にその人たちは姿を消す。他の所で新しい生活を始まるけど、大変。できる人も、できない人も。こんな秘密を内々にはしておけますか? ヨーロッパでそんなことはすごく珍しいけれど、危機で蒸発している日本人は多くなっているらしいです。毎年20万人。ショック!

これから色々なものにびっくりするはず。びっくりしたい! カルチャーショックアディクトです。この三つの課題のおかげで、やっと日本について詳しく勉強したくなった。特に社会。やっぱりまだまだハーフです。何パーセントまでいけるかしら!? もちろん僕のアイデンティティはフランス人で、100%まで行きたくないですが、もっと、もっと知りたい。

でもとりあえず、留学生の為に案内書として僕が知っていることを伝えたい。ただアドバイスだけです。

一、もちろん留学する前に日本語を勉強して、上手になることは一番大切です。みんなに「充分!」と言われてもまだまだですよ!

二、留学生は自分の国の大使なので、態度に非の打ち所がなかったら、日本人はいいイメージを認めるはず。でも心配しないで! 日本人はとても優しいから、失敗しても別に関係がありません! しばしば留学生は自分が間違えてしまったことが判っていないし!

三、「YES」はすごく大事な言葉です。「NO」と言う色々な機会に門戸を閉ざす。招待を断らないで、様々な提案をして、友情の強いきずなを作ってみてね!

色々な国から来た留学生と話して、日本人の友達はなかなかできないと言われた。私は日本人の仲がいい友人いるので、びっくりした。でも僕は最初から、他のフランス人を同伴せずに、日本人と会ったり、サークルや交流会に参加した。日本人と溶け込むために、自分の世界と少し離れることは必要だと思う。大学で機会が沢山あります! サークルや部活や留学生のためのIEC会などがあるので、是非参加してもらいたい! 大学以外の場所はアルバイト場。バイトしたら、給料で新しい友達と遊べるし、素晴らしい経験になるはず。そんなに素晴らしくなくても、とりあえず経験になる! Look at the bright side of life!

そうすると、友達はできるはず! できたら、日本

語のレベルが上がるし、日本の知識が深くなるし。つまり、留学に意義を与えます！

もちろん、留学がしたい学生達はみんなが個人の理由があります。

私はここに住みたいし、ここで就職したいし、日本は私の新しい家になるように頑張っています！今まで会った人に感謝しています。今から会う人によろしくをお願いします！



ここに来て見えてきた日本

金 順姫 (韓国)

皆さん！こんにちは。

私は韓国から去年9月末に交換留学生として和歌山に参りました金順姫と申します。教育大学院の二回生で、一年の交換留学生です。

時間が経つのも早いもので、日本に来てもう5ヶ月になります。すごく日本に留学したかったので、ここでの生活は楽しくて楽しくて仕方のない毎日です。だから、もっと時間が早く過ぎるような気がするのだと思います。

私が日本語の勉強を始めたのは大学3年の時からです。元々の専攻は地質学ですが、第2専攻に日本語を選択したのが切っ掛けでした。それ以来、ドンドン日本語だけではなく、日本という国にも興味が湧いてきました。日本が好きな気持ちだけ、色んな本も読んだし、ドラマや映画を見るのも大好きで、たくさん見ました。よって、私なりに日本について知っているつもりで、ここに来ましたが、ここに来てから、新しく見えてきた日本があります。

日本食が好きだった私は来日してから暫らくは

ラーメンや100円寿司ばかりでした。でも、その内、辛いものが食べなくなった私は何か韓国の料理を作ってみようと思いました。スーパーに行き食材を探していた私はびっくりしました。唐辛子は多分ないだろう。あってもすごく高いだろうと思っていた私をびっくりさせたのは唐辛子ではなく、一個単位で売られているニンニクでした。

韓国ではニンニクを一まとめにして売られているので、一個、二個で買うと言う感覚が全然なかったのです。そのことがあって、日本の方に聞いてみて、日本の料理にはニンニクはほとんど使われないと知って、納得いきましたが、それまで日本料理に唐辛子はあんまり使われていないとは知っていたけど、ニンニクもそうだとは全然知りませんでした。今まで韓国に来た日本人にいつも辛い大丈夫ですか？とは聞きましたが、ニンニク大丈夫ですか？とは聞いたことがないなと思いました。考えてみれば、韓国の料理ってほとんどニンニクを入れるのに……

ここに来て、「ニンニク臭い」という言葉があるのを知りました。

私がここに来る前、私より先に来日した先輩から「和歌山の冬は外より家の中が寒いよ」と言われたことがあります。「えー、嘘でしょう」と、その時は、その言葉の意味がまったく分かりませんでした。でも、実際に生活している今はその言葉の意味が充分に分かります。

韓国ではオンドルという暖房設備があって、部屋の床が暖かいです。だから部屋の中では薄着で居られますし、スリッパも要りません。ここで冬をすごしてみたら、日本のドラマや映画によく出ていたコタツがなぜ必要で、日本の住宅文化になったかその理由がよく分かりました。最初はここの部屋の寒さに慣れなくて、大変でしたが、今はコタツに入ってる鍋の魅力に嵌っています。

冬になったら、またコタツに入ってる鍋がしたくなるだろうと思って、国に帰る時、コタツももって行きたいなと考えています。でも、オンドルのある韓国の部屋ではコタツの魅力が分からないでしょう！すごく残念だと思っています。

私の留学生活もあと、残り半年となりました。これからどんな日々が待っているのか、またどんなところが新しく見えてくるのかすごく楽しみです。いつも留学生の生活を支援してくださるWINコンコードの皆様！本当にありがとうございます。

新留学生紹介

サミール・ナセル・エディンヌ (レバノン)

私の名前は、サミール・ナセル・エディンヌ、レバノンから来ました。首都ベイルートで生まれました。22歳です。

18歳の時、レバノンを離れ、情報工学の勉強を続けるためにフランスに行きました。コンピエーニュ工科大学(UTC)を選んだのは、フランスにあるエンジニアを目指す大学で、最も国際的に開かれた大学の一つだったからです。

海外で経験を積むことに強く動かされ、最初の研修をブラジルの南にあるクルティーバで行いました。6カ月の滞在でしたが、そこで職業に関しても、また文化的な面でも豊かな経験を積むことができました。

クルティーバでは、たくさんの日本人と出会い、そのおかげで日本に強く惹かれるようになったのです。こうしてUTCに戻った後、和歌山大学との交換留学生に志願し、6カ月間の研修に来ることができたのです。

私は、言語に深い興味があります。母国語はアラブ語ですが、フランス語、英語、ポルトガル語も流暢に話します。和歌山にいる間には、日本語

も学びたいと思っています。

最も好きなスポーツはスキーで、バスケットボールもしますし、夏には水泳もします。また一方で、写真が趣味で、余暇にはその学習と習得を楽しみたいと思っています。

留学生の皆さんの素晴らしい日本での滞在をお祈りします。

ディン (マレーシア)

私の名前はディンという。でも周りのマレーシア人に私はアランと呼ばれている。マレーシアのジョホールから来た。自宅は静かな田舎にある。

8人兄弟で私は6番目。お兄さん4人とお姉さん1人と弟1人と妹1人がいる。残念だが、私の一番目のお兄さんが1992年に事故で亡くなってしまった。

小学生の頃、自宅の近くにある学校で勉強した。高校生になると自宅から400km離れた学校で勉強した。大学生の今は日本で勉強している。

私の勉強する場所がだんだん遠くなる。遠くても大丈夫だと思う。私の趣味はパソコンのゲームをすること。ボーリングも好き。

なぜ私は和歌山を選んだかと言うと、田舎の方が好き、そして海があるから。これから日本での生活を頑張る。お仕舞い。



陳 園 (中国)

こんにちは。陳園と申します。中国の浙江省から参りまして、交換留学生です。一年間の留学生活が始まろうとしていることを心より嬉しく思っています。

出身地：中国浙江省湖州市

家族：両親、兄

趣味：読書、音楽を聞くこと、NHKのドキュメンタリーを見ること

高校時代に、ある日本のドラマをきっかけに、日本のドラマが好きになりました。そのうち、日本語が好きだと思い始めたことに気がきました。大学に入ってから、日本語を勉強しようという決断を下しました。日本人は感覚が繊細で、人間と自然との調和を尊重することに感心しています。もっと深く日本人の考え方や思想など味わってみたいと思い、日本へ留学することにしました。

日本において、日本社会の実生活を見て、経験して、中日文化を比較して、幅広い学習習得と見識が持てることを目指しています。さらに、日本人の皆さんに、中国人学生の生き方、生活を通して、中国人の姿を示したいと思います。

齊 海艶 (中国)

皆さん、こんにちは。私は中国からの留学生の齊海艶と申します。小さい町で生まれて育ちました。東北财经大学二年生で国際商務日本語を勉強しました。今回は交換留学生として、和歌山大学で経済についての日本語を勉強します。

趣味は旅行、スポーツです。ちょうど桜祭に日本に来て、とても嬉しかったです。4月3日午後3時関西空港に着陸しました。バスで目的地の和歌山に向いました。途中の緑がすごいですよね。大連にはそんなに緑がありません。特に大通りの美しさにびっくりしました。汚れがちとも見えませんが、建築物などが新しいものの様で別の新しい世界に入った感じです。急に心地よくなりました。心配な気持ちはちっともなくなりました。ずっとこの町にいたいという気持ちになりました。ここの静かさと町の雰囲気が好きになりました。これから、絶対がんばります。

来年はまたここに来て、院生になりたいです。これから、よろしくお願いいたします。

ハキム (マレーシア)

はじめまして。皆さん、こんにちは。私はハキムだ。マレーシアから来た。自国ではクランタンという州に住んでいる。



実は、私はディンさんとマレーシアで一緒に勉強したことがあった。というより、ルームメイトだ。高校生の時代は、マレーシアでスポーツをしたことがあった。実は、私はサッカーに全然興味がないんだよ。そこで、ラグビーをした。でも私はスポーツの才能がない。AAJ (Ambang Asuhan Jepun) という日本語学校に通っていた。勉強が忙しいので、スポーツをする時間も少ないので、そこでスポーツをするのをやめた。

日本というより、和歌山に来る前にはいろいろな事を考えた。なぜなら、来る前に和歌山は本当に田舎と言われた。でも来た後は、そんなに田舎じゃないじゃん。日本に来たばかりなので、日本語が上手に話せないし、わからへんこともたくさんある。しかし、先輩たちは優しいから安心だ。

私は4年間で卒業できるように頑張りたい。しかし、皆さんの協力が必要だと思います。よろしくお願いします。

王 海鵬 (中国)

はじめまして。浙江师范大学からの王海鵬(おうかいほう)です。今は交換留学生として、和歌山大学教育学部の学生です。ふるさと千島湖は1,078の島で「千島湖」と名付けられて、きれいな観光地です。チャンスがあったら、ぜひ千島湖に遊びに来てください。

私はスポーツが好きですが、卓球とかバドミントンとか、テニスなどをやっていますが、どれもあまり上手ではありません。

去年の9月栃木県に行ったことがあります。その時、交流生として、宇都宮大学でゼミナールに参加したり、東京江戸博物館と浅草寺に行ったり、日光の足尾銅と東照宮を観光したりしました。10日間だけど、人々の親切さと礼儀正しさ、それから、とてもきれいな日本、すべてが私の胸に深く

残っています。ここに来てから、皆様の親しみと優しさに感動し、すぐ落ち着いてきました。これから一年間よろしくお願いします。

楊 晨 (中国)

はじめまして。私は2010年4月浙江師範大学の交換留学生として和歌山大学に来了。故郷は浙江省の嘉興です。杭州と上海の間にあります。小さい都市ですけど、歴史的で美しくて多くの人を引き付けます。特に春は、広い芝生で沢山の人が風揚げをしたり遠足をしたりして楽しめます。さらに、金華ハムと同じ、嘉興粽は一番有名だと思います。豚肉とか小豆とか中に入れて、美味しいと言われています。

私の趣味は音楽を聴くこと、映画を見ることと旅行です。音楽というと、何でもいいとは言えないです。特定の状況によって特定の音楽を聞いて、何となく音楽の世界に溶け込みます。映画は悲劇は別として、他は何でもいいです。一番旅行したいところはスペインとフィンランドです。

中国で小学校からずっと英語を勉強して、大学に入ってから日本語を初めて習いました。ずっと小さい頃から日本に興味を持っていましたから、今回、その留学の機会を与えられ、自分の幼い頃の夢がようやく叶って嬉しい限りです。

外国で生活すると、きっと面白い点がたくさん発見できます。和歌山大学は、歴史の雰囲気にもまれています。そんな生活に溶け込めば、日本語能力をあげるのにすごく役立ちます。そして、日本でいろいろな活動を体験してみると、私自身の経験も積むことができます。

これからずっと頑張っていこうと思っています。

金 明峰 (中国)

はじめまして。私は金明峰と申します。2008年10月に日本にまいりました。日本に来てもう1年半たちました。和歌山へ来る前、大阪の大東市に住んでいました。大阪に住んでいましたが神戸のコミュニカ日本語専門学校に1年半通いました。今年和歌山大学大学院に合格したので4月に和歌山市に引っ越しました。今、経済学研究科で経済学を勉強しています。和歌山に来てまだ長くないけれど、いろいろなことを通じて和歌山の方がすごく優しくて親切だと感じました。

私は1983年8月26日に生まれました。私の故郷は中国の吉林省吉林市です。中国の東北のところです。冬になるとすごく寒いです。最低気温がマイナス25度～30度まで下がります。

私は中国の少数民族の朝鮮民族です。小学校から高校までずっと朝鮮族学校に通いました。視野を広げるために大学は故郷とすごく離れている雲南大学に通いました。故郷から一番速い電車で60時間もかかる場所でした。4年間で故郷に1回だけ帰りました。雲南省は経済はあまり発展していないですが、自然景色がすごくきれいな所です。大学を卒業した後、雲南省で韓国語ガイドとして1年間働きました。日本に来たかったので仕事を辞めて日本にまいりました。

日本に来る前は、いろいろな不安と心配がありました。しかし、日本に来て優しい日本の方々の支援で、そんな不安と心配がすぐなくなりました。今から2年間和歌山大学でしっかり勉強して、将来は微力ながら両国の経済発展のため、架け橋になれるよう尽くしたいです。

2009 年度 活動経過

- | | |
|----------|---------------------------------------|
| 4月4日 | 新入生歓迎花見 (和歌山城) |
| 4月26日 | 県立美術館訪問 |
| 5月3日 | 和歌祭渡御行列参加 |
| 5月16日 | WIN コンコルド ニュースレター19号発行 |
| 5月17日 | WIN コンコルド総会兼 NPO 法人 WIN コンコルド設立総会・交流会 |
| 5月22日 | 特別展「紀の国の精華」(県立博物館) |
| 6月15日 | 歌舞伎鑑賞教室 (県立文化会館) |
| 8月1日 | 紀州ぶんだら踊り・パーティ |
| 8/22~23 | サマーキャンプ (有田川町) |
| 10月4日 | 第18回留学生の故郷を語る会 |
| 10月11日 | 和歌浦万葉薪能 |
| 10月18日 | 特別熊野三山の至宝・市民茶会 |
| 11/14~15 | NPO 法人 WIN コンコルド 設立記念バザー |
| 11月22日 | 大学祭模擬店協力 (国際交流会館) |
| 12月12日 | 餅つき (新堀保育園) |
| 12月23日 | 八朔狩り・鍋パーティ |
| 1/1~3日 | お正月パーティ (ホストファミリー宅) |
| 1月10日 | 成人式参加 |
| 1月17日 | 文楽鑑賞 (国立文楽劇場) |
| 2/19~20 | トヨタ自動車工場見学・スキー旅行 |
| 3月7日 | 卒業生を送る会 |

年 間	ホストファミリープログラム ビジネス日本語クラス 住宅紹介・入居・転居の支援 生活用品の貸与、生活情報提供
-----	--

冬の楽しい思い出

アイン (ベトナム)

冬と言うと、すぐに「寒い、雪、スキー」に思い浮かぶでしょう。

自国のベトナムはいつも暑くて、雪を見るのはドラマの中だけです。それで、日本での初雪をとっても期待していましたが、暖かい和歌山に住んでいるので、たった1回しか雪を見ませんでした。

しかし、WINの活動の一つで、トヨタ自動車工場見学とスキー旅行に行くことになりました。

最初にトヨタ会館を訪れ、「綺麗」という印象を受けました。ガイドさんの説明の後、留学生の私たちは自由に見学させていただきました。会館を回ったら、綺麗な車だけじゃなく、道では見かけたことのない車がたくさん並んでいました。

昼に御馳走をしていただき、いろいろな質問に答えてもらいました。留学生はたくさん質問をしました。トヨタ自動車の組織や社会貢献活動のことなどについて話してもらいました。

その後、トヨタ工場で車の組立各段階を実際に見て、説明を受けました。特別な技術も見せてもらいました。一定時間内に仕事をしあげられるか、というゲームをして、楽しかったです。

トヨタ博物館で様々な時代の様々な会社の車を見ました。漫画だけで見られると思っていた車もありました。車のおもちゃの世界にいるようでした。トヨタ見学が終わってホテルに向かいました。

温泉で長い時間バスに乗った疲れを取ってから、贅沢なバイキングを食べました。せっかく皆が集まったので、あくる日に早く起きないといけなかったけど、皆が好きなだけカラオケをしました。

スキーの日は、天気も良かったです。晴れで雪がたくさん降ってきました。真っ白な世界が不思議でたまりませんでした。「ようこそ、ようこそ」と歓迎してくれているみたいです。

スキースクールでは、3つのチームに分かれます。それぞれのチームに指導の先生がいました。カニ歩きなど最初から学びました。周りを見ると、同じスクールもたくさんありました。ただし、そのスクールの生徒達は子供でした。

子供に負けたくない気持ちを持ち、こちらの留学生も真剣に先生の指導どおり練習しました。しかし、自分の体じゃないようで、雪の上を滑るのは意外に難しかったです。格好がいいということ



どころか、止まるのもなかなかできませんでした。

スクールを合格する学生は、自由に山の一番高いところなどへ行けます。マレーシア人、アメリカ人、ブラジル人が早くできるようになりました。まだ卒業できない人は、午後のクラスを続けなければなりません。

ですが、最後の最後、6人がなかなか卒業できませんでした。指導の先生も学生も奮闘していましたが、この学生達には時間がもつというかもしれません。私もこの残りチームにいました。スクールで練習しながら、一緒に行く友達がすすつと山から滑ってくるのを見て、自分も山に登りたくてたまりませんでした。最後まで卒業できないというのは山に登れないんだと考えて、とてもがっかりしました。

しかし対策がないわけではありません。このような学生は、出来る人について、山に登ったら大丈夫です。それで、皆が山に登ることが出来ます。

後まだ予定がいっぱいあるのに、怪我をして、あの救急車に寝ている人になったらそれまでだと心配しながら、先生と山へ行きました。山の真ん中からでも、かなり練習と違いました。合格できませんが、教えてもらったことを利用したら大丈夫という自信満々で出発しました。

「大丈夫、大丈夫、まだ大丈夫。。ああ。。ああ。。ドン!!!」やはり転びました。

そういう風に何回も転ぶ方法で止まりました。そのたびに、立ち上がるのは困難なものです。しかし、上から滑ってくるのは本当に楽しかったです。集合場所に帰ってくると、皆が雪球を投げて遊んでいます。

たくさん遊び、写真を撮り、すっかり疲れましたが、誰よりもWINのスタッフが一番大変でした。「楽しかった。ありがとうございます。」という気持ちで、皆はぐうぐう寝てしまいました。

社会貢献についての感想

王 文瀟 (中国)

社会貢献という言葉は、日本に来て初めて耳にした。社会貢献とは何か。誰が貢献しているのか。なぜ貢献に携わっているのか。どんな形で社会貢献に携わっているのか。知らないことばかりでしたが、地域貢献の学習会に参加して、ある程度理解できたと思われる。この学習会は、企業の社会貢献について全国規模の事例や和歌山での事例をもとに、その理解を深めるために開催された。以下に企業の社会貢献と NPO や個人の社会貢献について述べてみたい。

その前に、社会貢献という概念を明らかにしたい。社会貢献というのは、法人または団体、個人による公益或いは公共益に資する活動一般を意味し、最初から社会に寄与することを目的として行う直接的な社会貢献と特定の事業や行為をすることが結果として貢献につながる間接的な社会貢献とが考えられる。

まず、企業の社会貢献について述べたいと思う。なぜ企業が社会貢献に携わっているのか、非常に興味がある。多くの企業が社会貢献活動に携わっている。寄付、商品や施設の提供、財団を作り全国の芸術文化活動を支援することなど。その意図するところも地域への貢献、企業の社会的責任、イメージアップ、会社に関わった時のリスクヘッジなど様々だろう。企業の社会貢献は企業の知名度の向上という宣伝あるいは売名的な側面もある。本当の目的は何なのか分かりにくい、多分複合的な目的があると考えられるが、社会の安定と発展に対して大いに寄与していると思われる。社会の理解や支持がなければ、企業の発展は望めない。社会の信頼や信用を得ることが企業活動の持続・発展のためには不可欠だ。また社会の構成員の一つとして企業は社会の発展に積極的に貢献していくことが社会的責任として求められる。

次に、自分の体験を結びつけながら、NPO や個人の地域貢献について述べてみたい。来日してからボランティアという言葉をよく聞いた。私たち留学生が充実した留学生生活を過ごすためには、ボランティアの方々は不可欠だ。例えば、日本に来たばかりの時、WIN コンコードという NPO 組織が布団、炊飯器、フライパン、自転車などを無料で貸してくださって、本当にありがたかった。ま

た、歌舞伎、バレエなどの演劇をボランティアの方々のおかげで見られたことや様々な日本文化を体験させる活動に参加できたことや日本語の勉強についても丁寧に応援してくれたことなど、信じられないほど色々お世話になった。中国でも、外国人留学生向けの活動が行われているが、私の知っている限りでは、このようにきめ細かく幅広く留学生の世話をする人や地域の組織はあまりない。そんな中国から来た私は、いつも無償で助けてくれるボランティアの方々は絶対何か目的を持っていると思っていた。留学生の世話は時間もかかるし、お金もかかる。この世の中にこのような人たちが本当にいるのかと思った。お世話になればなるほど、恩返しできないので、徐々に不安になっていた。バイト先の店長は「日本人はボランティア活動が好きだから、あんまり気にしないでね。」と言ってくれた。それを聞いて、私は、「好き。ただ好き。私が考えすぎているのかもしれない。」と思った。WIN コンコードの方に聞いてみると、「困っている留学生がいるから応援している。自分の娘や息子に接するのと同じような気持ちです。」と答えてくれた。自発的に、自然な感情で応援する気持ちを持っていることが分かった。同時に充実感や満足感を感じながら生き生きとボランティア活動に取り組んでいるように見受けられる。以上のことを考えると、日本人は確かにボランティアの意識が高いと思う。地方である和歌山でも、NPO と個人的なボランティア活動が活発なのに感心した。中国でボランティアといえば、北京オリンピックや上海万博のようなある期間に無償の奉仕活動することだ。日本のボランティアや NPO のように何年間何十年間と続ける人や活動が少ない。

このことから、中日両国の国民性や文化さらには社会の制度、仕組みやその成熟度の違いについて意識せざるを得ません。また高齢化社会とボランティア活動との関係についての考察も重要であることに気が付いた。日本は世界にも例のない高齢化社会に入っている。中国も早晚高齢化社会に入っていく。高齢者の生きがい、充実した人生とボランティア活動による社会貢献とをどのようにつなげていくのか重要だ。

日本でボランティアの方々にお世話になり、本当に有り難く、心から感謝している。中国に帰ると、日本のボランティア活動を見習いたい。ささやかであっても、自分の力を尽くし、社会貢献のために努力したいと思っている。







WINコンコード設立趣意書

現在社会は、政治・経済・文化のすべて分野で地球を一つの単位として捉え、はじめて、その機能を十分に発揮しうる状況に至っていると思われる。そして、このかけがえのない地球の責任を担っているのは、たった一つの「種」に留まる「ヒト」即ち人間であり、その一人一人の人間が確立された個として、地球の貴重な構成要素としての役割を果たすことが求められています。民族の違いは、多様な文化の豊かさを示すにすぎず、国境は行政を効率的に行うための境界にしかすぎないのです。

WINは、人間の知恵を結集し、愛すべき郷土和歌山が、人間味溢れるネットワーク（HAN Human Active Network）で結ばれた、活性化された地域となるために活動するものです。そして世界各国から勉学の間を求めて留学して来る人々に、より良い環境を整えることは、ひとつの単位となった地球上に「HAN」を構築するうえにおいても重要なことであり、これにより、地球のひとつの地域である和歌山が、世界とダイレクトに結びつき、和歌山の優れた文化が世界に紹介され地球の多様で豊かな文化環境の醸成に寄与できるのではないかと考え、我々は、WINコンコードを設立するものです。

NPO法人 WIN コンコード事務局

〒640-8215 和歌山市橋丁23番地N4ビル3F

TEL/FAX 073-426-0798

<http://www.wakayama-info.net>

E-mail win@infonet.co.jp